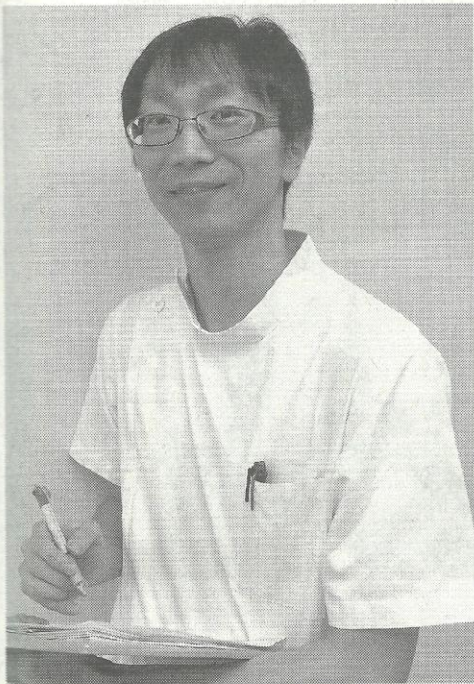


西胆振で初の認定

製鉄記念
室蘭病院



「緩和薬物療法認定薬剤師」に認定された長尾さん

緩和薬物療法認定薬剤師

室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院（前田征洋病院長）の診療放射線技師・大川裕貴さん（29）が「救急撮影認定技師」に、薬剤師の長尾裕悟さん（34）が「緩和薬物療法認定薬剤師」に認定された。同病院によると、両資格ともに西胆振では初の認定という。2人は、「患者さんのために知識を生かしていきたい」と話している。（松岡秀直）

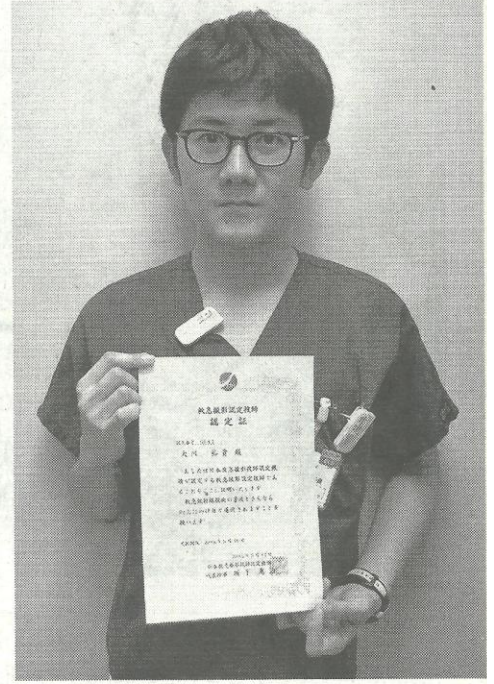
長尾 裕悟さん

長尾さんが認定を受けた「緩和薬物療法認定薬剤師」は、緩和医療に携わる薬剤師の知識や技術の向上、がん医療の均てん化に対応できる人材育成を目的に、日本緩和医療薬学会（東京都）がスタートさせた認定資格。

血液腫瘍病棟などを担当する薬剤師の長尾さんは、「痛みやつらさを訴える患者さんが多い中、緩和ケアを通じて、少しでも痛みを軽減できれば」と、5年前から緩和ケアチームの一員としても活動しており、今年3月の試験に合格した。

緩和薬物療法では、医療用麻薬や鎮痛補助剤の使用など、患者側から見ると大きな負担になる薬物を使うケースも多い。専門的な知識を持った薬剤師が、しっかりと薬の管理をすることが大切な状況だ。がん患者の増加に合わせて、緩和ケアチームの中でも、緩和薬物療法認定薬剤師の存在が重要になっている。

長尾さんは、「認定を受けたから（これまでの仕事）が変わるわけではない。これまで同様、患者さんの痛みや副作用の軽減が図れるように頑張りたい」。患者のために変わらせず、最善を尽くす決意を話す。



「救急撮影認定技師」に認定された大川さん

救急撮影認定技師

大川 裕貴さん

大川さんが認定を受けた「救急撮影認定技師」は、地域や日時を問わずに患者が病院に搬送される救急医療の中で、安定して最適な画像情報の提供と、安全性を担保する知識・技術の普及を目的に、日本救急撮影技師認定機構（大阪府）がスタートさせた認定資格。

3年以上の救急診療業務のほか、救急診療に用いる各種画像診断機器を円滑に操作する技術も必要になるという。大川さんは放射線技師として繁忙な日々を送る中でも、「スキルアップの一つにつなげよう」と、資格取得を決断。今年3月の試験に合格した。

救急患者は一刻を争う中、コンピューター断層撮影（CT）装置や磁気共鳴画像装置（MRI）などの各検査が必要不可欠なケースが多い。放射線技師も迅速な判断と、患者の急変に備えた安全で効率的な検査も要求されるという。

大川さんは、「（病気やけがの状態がひどく）患者さんが通常の精神状態でない場合や、一分一秒を争うケースもある。救急医療のスタッフの一人として、さらに貢献したい」と決意を新たにしている。